

祝福の源となるように

創世記 12 : 1 - 8



司祭 ヨハネ 井田 泉

大齋節第2主日

2026年3月1日

上野聖ヨハネ教会にて

今朝（2026年3月1日）新聞を開いたところ、アメリカとイスラエルがイランに対して大規模な武力攻撃を加えたことが報じられていました。これは神様が願われるものではありません。不義の行為です。現代イスラエル国家は、聖書の「神の民イスラエル」を受け継いではいません。一部のキリスト教は、「イスラエル」というだけで現代イスラエル国家を無条件に支持していますが、これは大きな誤りです。

今日は旧約聖書日課で読まれたアブラハムの出発の物語からお話しします。アブラハムは元の名はアブラムで、後に神様によってアブラハムと変えられます。それで聖書の引用以外はアブラハムと言うことにします。

さてその遠い昔のアブラハムですが、彼は「信仰の父」と呼ばれます（ローマの信徒への手紙 4:11 ほか）。彼が経験したことはわたしたちに関係しています。三つのことを挙げましょう。

第1は、神がアブラハムに語りかけられた、ということです。

「主はアブラムに言われた。『あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。』」創世記 12:1

神様は彼に「ここから出発してわたしが示す地に行きなさい」と言われました。そこには祝福の約束が伴っていました。

「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。」12:2

神様はわたしたちにも語りかけておられます。わたしたちにも祝福を注いでくださっています。これがアブラハムとわたしたちの第1のつながりです。

第2に、アブラハムは神の言葉に従って約束の地を目指して出発しました。

「アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。」12:4

とても簡潔に書かれていますが、アブラハムにはためらいも恐れもあったでしょう。一家一族を抱えていろいろな事情があったでしょう。けれども大切なことはこの一言です。

「アブラムは、主の言葉に従って旅立った。」

これが信仰です。わたしたちも、天国を目指してこの地上を旅しています。これがアブラハムとわたしたちの二つ目の共通点です。頼るのは主の言葉。目指すは神の国。これを忘れないでいきましょう。

アブラハムとその集団はカナン地方（今のパレスチナ）に入りました。見知らぬ地でたくさんの心配や恐れがあったことでしょう。そこで第3です。アブラハムはそこに祭壇を築きました。

「主はアブラムに現れて、言われた。『あなたの子孫にこの土地を与える。』アブラムは、彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。」12:7

祭壇とは元々、動物を犠牲として神の前に献げる場所です。それは自分を神に献げることの象徴です。祭壇を築いたというのは、真剣に、真心を尽くして神を礼拝したということです。さらにこう書かれています。

「アブラムは、そこからベテルの東の山へ移り、西にベテル、東にアイを望む所に天幕を張って、そこにも主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。」12:8

「主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。」アブラハムはそのように礼拝し、そのように生きた。わたしたちも祭壇の前に集まり、真心をこめて礼拝します。これが三つ目のアブラハムとわたしたちとのつながりです。

大切なことを三つ確かめました。アブラハムとともにわたしたちも、(1) 神様の呼びかけと祝福を受けている、(2) 神の言葉に従って約束の地を目指して旅している、(3) 祭壇・聖卓の前で真心からの礼拝を献げ、主の御名を呼んでいる。このようにわたしたちは、アブラハムの信仰を受け継いでいるのです。

ここで神様がアブラハムに語られた一つの言葉に近づいてみましょう。何という言葉かというと「祝福」という言葉です。

「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。地

上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」

ここで5回も「祝福」という言葉が繰り返されています。このように繰り返された主の言葉は、アブラハムの中に宿りました。神の祝福を胸に抱き、繰り返し神の祝福を思って彼は生きていきました。

ここで大切なことは、神の祝福はアブラハムとその家族一族、その子孫だけに注がれたのではなかった、ということです。「あなたは**祝福の源となるように**」と言われていました。神の祝福は、それを受けたアブラハムに留まらず、そこから溢れ出てあらゆる人々を潤していく。神様はこう言われました。

「地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る」

神様の目的は、地上のあらゆる氏族、あらゆる人々を祝福することです。その祝福を広げていくために、神はアブラハムに呼びかけ、祝福された。アブラハムは神の祝福を世界に広げていくという使命を与えられたのです。彼とその子孫（イスラエル）は、いわば神様の祝福を広げていくための大切な器、かけがえのない道具です。実は教会も同じです。

しかしこの世界には混乱があり、争いがあり、悪があります。アブラハムもその集団も混乱や争いに巻き込まれます。そうした中で、神の祝福はどのようにして広がっていくのでしょうか。ソドムとゴモラの悪が満ちて、アブラハムに迷いと危険が生じ

たとき、神はあらためてこう言われました。

「アブラハムは大きな強い国民になり、世界のすべての国民は彼によって祝福に入る。わたしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」創世記 18:18-19

世界中の人々がアブラハムによって祝福に入るのは、自動的にそうなるのではない。アブラハムと子孫が主の道を守ること、主に従って正義を、正しいことを行うことによってそれは実現していく。もし主の道を守ろうとせず、みずからも悪を行うならば、神の祝福をみずから台無しにし、世界に対する神の祝福の計画も破壊してしまう。決してそうなるてはならない、と、このとき神はアブラハムを捉えて、彼を本来のあり方に据え直されたのです。

不幸なことに、後のアブラハムの子孫は何度も神に背いて悪に陥り、そのために国が滅びるという結果を招きました。その反省と悔い改めの中で聖書（旧約聖書）の多くの部分が書かれたのです。

アブラハムの信仰と神様から与えられた使命を受け継いでいるのが教会、つまりわたしたちです。教会は神様の祝福を周りに、そして世界に広げていく使命を与えられています。

その使命を果たすためには、神がわたしたちに祝福を注いでいてくださることをあらためてはっきりと知ることが必要です。祝福の源である神様から祝福が来て、わたしたちもまた祝福の源とされる。

それで今日の締めくくりに、主イエスの祝福の姿を思い浮かべましょう。主イエスは復活の後、40 日の間弟子たちに何度も現れて弟子たちを励まされました。そして弟子たちと別れて天に挙げられるとき、両手を上げて弟子たちを祝福し、祝福しつつその姿は見えなくなりました（ルカによる福音書 24:50-51）。

神様が、イエスさまがわたしたちを祝福していてくださる。祝福とは、神がわたしたちを、わたしたちの存在を無条件で愛し、肯定し、喜んでくださる、ということです。愛の励ましを与えてくださる、ということです。アブラハムを祝福された方は、今、主イエスをとおしてわたしたちを祝福してくださいませ。わたしたちは、祝福してくださるイエスの温かい目に見守られ、優しくも力強い両手によって支えられ、導かれます。

祈りましょう。

神様、あなたはかつてアブラハムを祝福して、アブラハムをとおして祝福を世界に広げようと決意されました。今、わたしたちを新しく祝福し清め、力づけてください。そうしてわたし

たちとわたしたちの教会をとおして、あなたの祝福が周りに、
世界に広がっていくようにしてください。主イエス・キリスト
によってお願いいたします。アーメン